

地域に根ざし飛躍を

学校法人 光星学院 60周年記念式典

八戸

八戸市の学校法人光星学院(法官新一理事長)は12日、創立60周年記念式典を同市公会堂で行った。同法人運営の幼稚園、高校、大学などの生徒や学生、関係者ら約1500人が参加、伝統を踏まえ地域に密着した教育機関として発展を続けることを誓った。

法官理事長は「6万人に及ぶ卒業生が巣立ち、世の光となっていることを誇りに思う。カトリックの精神に基づき、個性尊重を主眼に全人教育を進めたい」と式辞。園児、生徒、学生を代表し、八戸学院大学健康医療学部4年の駒目透さんが「人間の心と健康を学ぶためこの大学を選んだ。学びを生かし、子どもに夢を与える教師になりたい」と誓いの言葉を述べた。

大島理森衆院議長、丹羽



創立60周年を祝う式歌「ハレルヤ」を歌い上げる学生たち

秀樹文部科学副大臣らが祝辞。光星学院高校卒業生で声楽家の五十嵐由紀子さんが同校校歌を独唱し、同大短期大学部幼児保育学科の学生たちが「ハレルヤ」を合唱して節目を祝った。

同法人運営の光星学院高校は、初代理事長故中村由太郎氏の尽力で1956年に同市に開設された。同法人は71年に八戸短期大学(現短期大学部)、81年に八戸大学(現八戸学院大学)を同市に開学。また野辺地工業高校(現八戸学院野辺地西高校)を野辺地町に、3幼稚園を市内に開くなど

教育施設の拡充を進めてきた。

(若松清巳)